

講義名	オ)物流管理論			授業形態	
担当教員	李 志明	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

我々は日常生活において様々なモノを消費している。そのモノの流れを物流と言うが、物流が止まると企業活動や日常生活が不可能となる。それだけ物流は重要である。近年、企業経営においても物流管理が大きな課題となっており、物流管理が可能な人材の確保が重要であると認識している企業が多い。講義を通して、必要な専門知識と企業の物流管理を理解する。特に、物流管理論は、企業の課長レベル以上に必要な内容を多く議論する。

2022年度はオンデマンド式となる。

到達目標

- (1)物流の6つの機能と、企業における物流の専門用語が理解できる。
- (2)流通における企業の物流管理の仕組みが理解できる。
- (3)物流管理における課題を理解し、これからの物流管理の意思決定に貢献することができる。

提出課題

オンデマンド式の講義なので、参加確認と理解確認のために、小テストをResponで実施する。15回の授業のうち、10回実施予定。

*小テストは授業内容と進捗状況によって実施するので、毎回の講義連絡を必ず確認すること。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

Responで実施した小テストの正解解説と、質問や意見への応答を行う。

評価の基準

Responによる小テスト10回（各10点、総100点）

*講義形式の変更があった場合でも成績評価方法は変更しない

履修にあたっての注意・助言他

- 1. オンデマンド式の講義であり、Responでの小テストを実施するので、IT環境などを事前に確認しておくこと。
- 2. 毎週、講義連絡を必ず確認すること。

教科書

.なし.

参考図書

その他

オンデマンド式であるため、基本的にレジュメは配布しない。ただし、授業内容によって必要な場合は、適宜資料を配布する。

授業計画

1. 物流管理論の理解
2. 日常生活と物流
3. 流通における物流の概念と6つの機能
4. 輸送機能の理解と輸送システム
5. 配送の概念と配送システム
6. 話題の物流
7. 物流サービスの概念と必要性
8. 物流情報の理解と情報システム
9. 物流コストの理解と物流コスト管理
10. 受発注システムと在庫管理の理解
11. 新技術による物流の変化
12. 流通加工機能と包装機能
13. 企業における物流管理の再考察
14. 国際物流と物流インフラ
15. まとめと物流管理の再考察

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

この授業科目は2単位であるが、2単位に必要な学修総時間は90時間と定められている。内訳は授業で毎回90分、予習・復習で毎回4時間である。授業中に案内する次回の内容についてネットなどを利用して3時間予習する。そして1時間の復習をする。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

物流は流通の一部であり、物流の基礎知識を身につけることで、DPの「流通に関する問題探索と課題提案に貢献できる」ようになる。また、物流の仕組みや役割を通して、DPの「流通の仕組みや役割を理解できる」ようになる。

小売業や日本経済において、モノの流れを管理する物流管理は欠かせない。物流管理の即戦力として会社で働めることができるので、DPの「社会で活躍する」ことになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

オンデマンド式なので、Responで質問または意見を受け付け、フィードバックする。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
物流データの分析と物流政策立案の支援の経験があり、民間企業や政府の考え方や仕事のやり方などが伝え、より現実感のある講義を提供できる。

備考
